

バイノーラル企画

【同居生活ASMR／耳かき／添い寝】

お隣の娘さんとひとつ屋根の下

脚本 日暮茶坊

2021/01/12 初稿

■登場人物

美波（みなみ） 16歳、女性。

あなた 社会人数年目の男性。声などは出さない。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

41 ○トラック 1

42

43 ■部屋の前

44

45 【9】しゃがみ

46 冬の日の夜。

47 美波、主人公の部屋の玄関前でしゃがみ込んでいる。

48 寒さを紛らわすため、手に息を吹きかけている。

49

50 美波「はーっ……はーっ……（手に息をかける）」

51 美波「うう……寒いよお。どうしてこんな日に……」

52 美波「ハア……（ため息）」

53 美波「隣のお兄さんの部屋、鍵開いてたりしないか

54 な……」

55

56 と、主人公が見下ろしているのに気付いて、驚く。

57 立ち上がり、近付く

58

59 【9】↓【1】立ち

60 美波「わっ……お、お兄さん、いつの間に!」

61

62 美波「もしかして……ずっと見てました?」

63

64 美波「わ、は、恥ずかし過ぎる……」

65

66 美波「ええつと……実は、部屋の鍵をなくしちゃっ

67 て。今日はお母さんの帰日も遅くて……つていうか、

68 仕事で帰ってくるかもわからない日で……」

69

70 主人公（それは大変だね）

71

72 美波「それで、あ、あの……ですね。ひとつお願い

73 が」

74

75 主人公（……?）

76

77 美波「思い切ったように」お……お兄さんの部屋に、

78 おじゃまさせてください!」

79

80 主人公（えええっ!）

81
82 美波「もちろん、お礼はします！ こう見えて私、
83 お母さんの代わりに家事のほとんどやっていますから、
84 ご飯作ったりとかお掃除したりとか得意なんです！」
85
86 美波「だから……凍えそうな哀れな女子校生を助け
87 ると思って……ね？ お願いますっ！」
88
89 美波「あっ、お母さんのことなら心配しなくて大丈夫
90 夫です。お兄さんのこと、いい人よねっいつも
91 言ってますからっ！」
92
93 主人公（だけど、やっぱり女の子を家に上げるのは
94 ……）
95
96 美波「お母さんが帰ってくるまででいいので……ダ
97 メ……ですか？（上目遣いのイメージ）」
98
99 美波「お仕事とかの邪魔もしませんし、ただ、お部
100 屋の片隅に、ちょこっとだけ置いてくれればいいん
101 です。私、小柄だからなんなら家具の隙間とかでも
102 すっぽりいけます！ だから……！」
103
104 主人公（ハア……しょうがないなあ）
105
106 美波「ええっ？ いいんですか？ やったあ！」
107
108 //SE:鍵を開ける
109
110 美波「あの……」
111
112 主人公（……？）
113
114 【7】急に近付いて耳元で囁くように
115 美波「お礼に、何でもしますから。遠慮無く言っ
116 て下さいね」
117
118 【8】少し離れて、いたずらっぽく
119 美波「あ、お母さんに怒られちゃうようなことは、
120 めっ！ ですよ？ ふふふっ」

121
122 //SE:扉開く——
123
124 ○トラック2
125
126 ■リビング
127
128 *「泊まらないけれど、いつも来ている」ですと、
129 主人公Ⅱ視聴者との感覚がズレてしまうので、初め
130 て部屋に入った（入れた）流れにあります。修
131 正も可能です。
132
133 【6】
134 美波「おじやましーす……（あたりを伺いながら）」
135
136 美波「へえ……ここがお兄さんのお部屋なんですね。
137 へー、へー。なんだか、部屋の作りはウチと一緒に
138 のに、男の人の部屋！って感じがします！」
139 美波「でも、ちゃんと片付いててすごいです。ウチ
140 のお母さんなんて、出かける前にいつもバタバタし
141 て色んなもの出しっぱなしで……（嘆息）」
142
143 //SE:ピピッと、エアコンのリモコン音
144 //SE:ぶわーっと強い温風が出る
145
146 美波「あっ、エアコンありがとございます。うわ
147 あ……あったかい……生き返る……ハア……エアコ
148 ン発明した人は天才ですね……」
149 美波「……っ！（気づき） す、すみません、つい
150 勝手にくつろいじやって……」
151
152 主人公（気にしなくていいよ）
153
154 美波「お兄さんが気にしなくても、私が気にします
155 っ。そうだ、もう晩ご飯食べましたか？」
156
157 主人公（まだだけど、一緒にコンビニ行く？）
158
159 美波「ええっ、コンビニ弁当ですか？ ううん……
160 ダメじゃないですけど……。あの、冷蔵庫の中、見

161 せてもらってもいいですか？」
162
163 //SE:冷蔵庫ドア開ける
164
165 美波「あっ、お野菜とか色々あるじゃないですか。
166 せっかくですから、これで何か作りますよ」
167
168 美波「任せて下さい。宿賃ってことで。お兄さんは、
169 その間に着替えてくつろいでてくださいね」
170
171 美波「大丈夫です。台所の作りも一緒だから、どこ
172 に何があるかもなんとなくわかりますんで」
173
174 美波「あ……もしあればですけど、エプロンだけ借
175 りてもいいですか？」
176
177 美波「(受け取って) はい。それでは、晩飯の支度
178 にとりかかりますね。作ってる間、ちゃんとお休
179 みしててくださいね。一日働いてきて、お疲れなん
180 ですから」
181
182 美波「私も学校あったでしょうって？ それはほら、
183 若さでなんともなりませんから♪」
184 美波「はい、それじゃテレビでも見て、でゆつくり
185 しててくださいね」
186
187 //時間経過
188 【9】ふたりとも座って同じぐらいの高さ。
189 テーブルを囲んで食事終わり。
190
191 美波「あ、あの……どう、でした？ (緊張)」
192
193 美波「一応、シチュー……私、得意料理なんですけ
194 ど……」
195
196 主人公(美味しかったよ)
197
198 美波「えっ！ ホントですか！ 良かったあ……(安
199 堵)」
200

201 美波「お母さんは美味しいって言って食べてくれる
202 んですけど、他の人に食べてもらったことってなか
203 ったから……味付けとか、好みとか、人それぞれだ
204 ったりするじゃないですか。だから、ちよつとドキ
205 ドキしちゃってました」
206

207 美波「良かった、好みの味付けの方向性が一緒なら、
208 他のお料理でも大丈夫ですね」
209

210 主人公（また作ってくれるの？）
211

212 美波「え？ また、シチュー作って欲しい、ですか
213 ……は、はいっ。もちろん、いいですよ！ 腕によ
214 りをかけて、今日はなかった具材とかも使って、と
215 びっきりのシチューご馳走しちゃいますね」
216

217 主人公（でも、なんか悪いなあ）
218

219 美波「あっ、そんな、気にしないでいいんですよ。
220 私が好きでやってることっていうか、そもそも今日
221 は助けてもらったお礼なんですから！ あと、やつ
222 ぱりお母さん以外の人にも食べてもらえた方が、
223 色々練習にもなりますし……」
224

225 主人公（なら、またお願いしようかな）
226

227 美波「はいっ。お腹が空いたら、遠慮無く呼んでく
228 ださいね♪」
229

230 美波「それにしても、お兄さんはいつもこのぐらい
231 まで働いてるんですか？ 私は今日、委員会の仕事
232 とかあったから、いつもより随分遅いんですけど…
233 …」
234

235 主人公（そうだね。むしろ早いほうかな）
236

237 美波「はあ……（感心）。うちのお母さんもですけど、
238 働くって大変ですね……」
239

240 美波「え？ 私も働いてる？ そんな、ご飯作った

241 りお掃除したりぐらい、家族なんだから当たり前で
242 すって。お兄さんも……その……お隣さんだから、
243 家族みたいなものです、うん」

244
245 美波「ちなみに……なんですけど、ちょっとだけ気
246 になつてるというか……質問が……」

247 美波「お兄さんって……その……ひとりぐらし、で
248 すよね。」

249
250 美波「ええつと……なんていうか、その……変な意
251 味じゃなくて……い、今、お付き合ひしてる人とか、
252 いるんですか？」

253
254 主人公（え？ いないけど？）
255

256 美波「あつ……そ、そうなんですネー（安心&ちょ
257 つと嬉しい）。ほ、ほら、勝手に上がり込んで、そう
258 いう人とはったりーなんてことになったら、ご迷惑
259 おかけしちゃうかなー……なんて」

260
261 美波「いないならいいんですっ♪ えへっ♪
262 え？ べ、別に喜んでないですよ！ そんな失礼な
263 こと言いませんよー。もー」

264
265 美波「でも……良かった（小声）」
266

267 美波「あつ、そ、それじゃ食器片付けちゃいますね！
268 大丈夫、どこに何があつたとか、大体わかりますか
269 ら♪……え、手伝ってくれるんですか？ ひとりで
270 ぼーつとしてると落ち着かないんですか？ ふふっ。
271 それじゃ、お願いしちやいますね♪」

272
273 ■キッチン

274
275 お皿を洗う美波。片付けを手伝う主人公。

276 //SE:シャーと水の流れる音

277 //SE:カチャカチャとお皿を洗う音

278
279 美波「その小皿はそつちで、牛乳パックは冷蔵庫に
280 ……つて、私が教えることじゃないですよね（笑い）」

281
282 美波「でもお兄さん、普段から綺麗に片付けてるん
283 ですね。うちのお母さんにも見習わせたいですよー。
284 え？ 使ってないだけ？ もう、それなら、今度か
285 ら私がもっと使ってあげます♪ こんなに色々揃っ
286 てるのに、もったいないですよー」
287
288 美波「ええつと……それじゃ、この大皿は上の棚で
289 したよね……よいしょつと」
290
291 //SE:上の方の棚を開く音
292
293 美波「え、高いトコ大丈夫かって？ へーきですよ
294 ー。こう見えて、身体検査でも去年より2センチも
295 身長伸びて……つて、わ、わわっ」
296
297 棚の上の方に皿を入れようとして、バランスを崩す
298 美波。
299
300 美波「きゃっ……ー！」
301
302 主人公、それを後ろから抱き留める。
303
304 美波「あっ……ひゃうっ……（驚き）」
305
306 【1】美波を後ろから抱きしめるような形に密着
307 美波「ぐ、ごめんなさい……！ あぶない、お皿割
308 っちゃうとこでした……」
309
310 美波「え？ お皿じゃなくて私は大丈夫かって？
311 は、はい……大丈夫……です、けど……（照れ）。も、
312 もう……手、離しても……平気ですよ？」
313
314 慌てて美波から離れる主人公。
315 【6】
316
317 主人公（ごめん、つい……！）
318
319 美波「ええつ？ お兄さんが謝ることなんて、なに
320 もないですよー！ 今のだって、私が悪いんだし、

321 助けてもらったわけですし……その……」
322

323 美波「あと、意外と……お兄さん、力強いんだなっ
324 て。それでびっくりしちゃっただけです。ほら、う
325 ち、私とお母さんしかないから……」
326

327 美波「あ、そんなことより、洗い物片付けちゃいま
328 すね♪」
329

330 ■リビング
331 時間経過。
332 スマホを見ている美波。
333

334 美波「お母さん、まだ連絡ないです……既読も付か
335 ないから、やっぱり忙しいのかな……」
336

337 美波「あの……もうちょっとだけ、おじやましてて
338 もいいですか？」
339

340 主人公（別に構わないけど……）
341

342 美波「ありがとうございます！ ああ、お礼と言っ
343 てはなんですが……実は、さっき洗い物手伝っても
344 らってる時に、ちょっと気になってたんですよね」
345

346 【6】→【8】
347 美波、主人公の近くに来て座り、手を取って
348 美波「ちょっと手を見せてもらっていいですか？」
349

350 主人公（……？ はい）
351

352 美波「……やっぱり、結構肌荒れしちゃってる。ち
353 よっと待って下さいね」
354

355 //SE:パタパタと歩く音
356 靴からハンドクリームを取りだし、戻る美波。
357

358 美波「じゃーん！ ハンドクリームです！ 私もよ
359 く家で洗い物して手が荒れちゃうから、いつも持っ
360 てるんです」

361
362 美波「はい、では座って手を出してください。塗る
363 ついでに、手の平のマッサージもしてあげますね」
364

365 美波「そんな、遠慮しなくていいですって。あ、も
366 しかして、ツボ押されて痛いのか想像してます？」
367

368 美波「ふふふっ。そんなことしませんよー。よくお
369 母さんが疲れたときにやってあげてる、やさしく
370 揉むようなのですって」
371

372 主人公（そ、それなら……）
373

374 美波「はい、それじゃ右手から出してください。う
375 わ、こうして改めて見ると……大きいですね。なん
376 ていうか……男の人って感じがします。ほら、こう
377 してぴったり合わせて見ると……関節一個分以上大
378 きいじゃないですか」
379

380 美波「これはハンドクリーム、いっぱい必要ですね。
381 いつもより多めにっ……はい、それじゃいきます
382 ね。まずは全体に馴染ませるように……」
383

384 //SE:ハンドクリーム塗る音
385 （マッサージと塗る音など途中挟みつつ尺調整）
386

387 美波「お兄さんの手……あったかいですね……ふふ
388 っ。それじゃ、親指から。そうです、一本ずつ、丁
389 寧に塗って、マッサージしていきますからね」
390

391 美波「あ、くすぐったかったら言ってくださいね。
392 はい、人差し指に塗り塗り塗り……っど。もう、
393 こんなになるまで放っておいて、社会人の身だしな
394 み？的に、ダメですよー」
395

396 美波「中指いきますね……すごーい、指ながーい……
397 ……爪もとってもいい形してますね。比べちゃうと、
398 私の指が子どもっぽくて恥ずかしいです……」
399

400 美波「はい、薬指いきますよー。そういえば右手の

401 薬指って、恋人用のリングするんですっけ？ あ
402 れ？ でも、特につけてた跡とかないですね……ふ
403 むふむ」

404
405 美波「では右手最後の小指ですね……こうして、小
406 指と小指絡めてみちゃったりして……って、じよ、
407 冗談ですよっ？ もう、そんな真面目な顔で照れな
408 いください……こっちまで恥ずかしくなっちゃう
409 ……」

410
411 美波「はい、それじゃ右手全体のマッサージですね。
412 ちよっただけ力入れますよー？ もみもみもみ
413 ……どうです？ 気持ちいいですか？」

414
415 美波「ふふっ。お兄さん、素直で嬉しいです……。
416 可愛♡」

417
418 美波「(気づき) あっ、すみません、調子に乗っちゃ
419 って……ええっと、左手、いきますね」

420
421 【8】↓【2】
422 左手側に移動する美波。
423

424 美波「今度は逆に小指からいきましようか……あ、
425 クリームもうちよっと出さない」と

426
427 【2】↓【4】
428 美波、主人公の背後にあるハンドクリームのチュー
429 ブに手を伸ばす。
430 耳元と肩をかすめて衣擦れの音など接近しつつ。
431

432 【4】↓【2】
433 元のポジションに戻って。
434

435 美波「はい、いきますよー。力を抜いて、楽にして
436 てくださいね……ふふっ。なんだか、本当のマッサ
437 ージ屋さんみたいですわね。あ、私はそういうお店、
438 行ったことないんですけど……」

439
440 美波「はい、薬指。婚約指輪とかする指ですねー。

441 私も将来、誰かにもらえるのかな……もらえるのか
442 なー(わざとらしく繰り返す)……なんて、ふふっ。
443 お兄さんを困らせたりしませんって。それより(今
444 度一緒に出かけた)……あ、ううん、な、なんで
445 もないですっ」

446
447 美波「はい、中指いきますよー。え？ 勉強とか
448 時間いいのかって？ もう、今更なんですかー。お
449 兄さんもお母さんみたいなこと言うんだから……。
450 (苦笑して)でも、大丈夫。私、こう見えて成績結
451 構いいんですよ。体育とか運動は、ちよつと苦手で
452 すけど……」

453
454 美波「それじゃ、人差し指ですね。そういえばお兄
455 さんは普段、マッサージとか行かないんですか？
456 ほら、駅前とかでよくチラシとか配ってるじゃない
457 ですか」

458
459 美波「え、一時間で三千円？ それは……ちよつと
460 高いっていうか……大人の人なら、そうでもないか
461 もですが……ううん、だったら私がまたやってあげ
462 ます♪ 無駄遣いするぐらいなら、こうして私を呼
463 んでくださいね」

464
465 美波「あとは親指さんですねー。うーん、なんだか
466 こうしてマッサージ終わっちゃうのも名残惜しいな
467 あ……なんて。あ、大丈夫ですよ。バイト代とか請
468 求しませんから♪」

469
470 美波「よいしょ……最後に両手を出してもらって
471 いですか？ そしたら、こうして指と指を絡めるよ
472 うな感じにして……根本の所からマッサージして
473 きますねー。あ、痛くないですか？ ふふっ、そん
474 な緊張しなくても大丈夫ですよ。では、いきます
475 ね。ぐりぐりっ……」

476
477 少し揉んでいる間。

478
479 美波「はいっ！ これでおしまいっ……ど、どう
480 でしたか？」

481
482 主人公（気持ち良かった）
483

484 美波「良かったあ……そう言ってもらえると嬉しい
485 です。（気づき）あ、お兄さんの手……私の手とおん
486 なじ匂いになっちゃいましたね。ふふっ」
487

488 ■トラック3
489

490 —時間経過。
491

492 【6】
493

494 美波「（気づき）あ……もう十時過ぎてる……でも、
495 お母さんまだ連絡来ないですね……」
496

497 美波「（もじもじしつつ）あ、あの……ひとつ、お願
498 いがあるんですけど」
499

500 美波「そこに畳んでおいてあるスエット……はい、
501 色違いでふたつあるそれです。それ、ひとつお借り
502 してもいいですか？」
503

504 美波「ずっと制服のままでと、なんていうか落ち着
505 なくて……今更ですけど」
506

507 美波「えっ？ いいんですか？ ありがとうございます
508 ます！ 大丈夫、ちゃんと洗ってお返しますから。
509 え？ そのままで構わない？……ええっと……それ、
510 もしかして後で……う、ううん、お兄さんならいい
511 んですけど……」
512

513 美波「と、とにかくパジャマ代わりにお借りします
514 ねっ」
515

516 美波「そうだ、お兄さん、お風呂入って来ちゃって
517 ください。その間に私こっちで着替えてますから」
518

519 美波「あ……信用してますが、覗いたりしたらめ
520 っ！ ですからね？」

521
522 美波「もちろん冗談ですって。ふふつ。……逆に私
523 の方が覗いちちゃったりして（小悪魔っぽく小声で）」
524
525 ———時間経過
526
527 【10】
528 //SE:ガチャ
529 主人公、扉開けてリビングに入る。
530 美波、リビングのソファでくつろいでいる。既にス
531 ウェットに着替えている。
532
533 美波「おかえりなさい♪ いいお湯でしたか？」
534
535 美波「あ……スウェット、私とお揃いですね。ふふ
536 っ」
537
538 美波「これ、ちょっと大きいですけど……ほら、袖
539 とかすっぽり。でも、すごくあったかいです。もつ
540 と早く借りておけば良かったな」
541
542 美波「……くんくん（スウェットの匂いかい）。な
543 んか、お兄さんの匂いがします」
544
545 主人公（ええ？ 臭い？）
546
547 美波「あっ！ 全然、嫌な臭いとかじゃないです！
548 なんていうか……男の人の匂いなのかなって。ああ、
549 もう……なんか変態さんみたいですわね、変なこと言
550 っちゃった……」
551
552 美波「（気づき）あ、それより、バスタオルお借りし
553 てもいいですか？」
554
555 主人公（その棚にまだ使っていないのあるけど）
556
557 美波「はい、じゃあソファに座ってください」
558
559 主人公、言われるままソファに座る。
560

561 【5】

562 美波「少し、じっとしててくださいね。髪、拭い
563 やいますから。え？ 自然乾燥？ ダメです、それ
564 って髪痛んじやいますよ。」

565
566 //SE:バスタオルで髪を拭き続ける

567
568 美波「はい、大人しくしてね。なんて、ちっ
569 ちやい子どもをあやしてるお母さんみたい。私も昔、
570 お母さんにこうして拭いてもらえるの、なんか嬉し
571 かったんですよ……」

572
573 美波「あ、そうですね……昔はお母さんも今みたい
574 に忙しくなくて、普通の時間に帰ってきてましたね。
575 いつからかな、今みたいな感じになったの……」

576
577 美波「中学生の途中ぐらいまでは、遅くても絶対、
578 家には帰って来てたんですけど……担当してる雑誌
579 がすごく売れてるみたいなんです。今、本が売れな
580 いなかでそれだから、会社全体の期待？みたいな
581 まで背負っちゃってるらしくて……」

582
583 美波「だから大変なもの仕方ないですよ。本当
584 はお仕事減らして欲しいですけど……大人って、そ
585 ういうのも難しいってことは、私でもわかりますか
586 ら」

587
588 主人公（美波ちゃんは聞き分けがよすぎるなあ）

589
590 美波「え？ 私が聞き分けが良すぎる？ そうです
591 かね……。ただ、お母さんに迷惑かけたり、嫌われ
592 たくないからってだけですけど……」

593
594 美波「うーん……でも、そうですね。家事とかで結
595 構時間取られるから、友達からの誘いとか行けない
596 ことも多いんですね。今年は生徒会役員にもなっ
597 ちゃったから、余計に忙しくて……それが悩みとい
598 えば悩み、かな……なんとなくですけど、友達とも
599 距離を感じちゃうこともあって……」
600

601 美波「でも、それってみんなそれぞれじゃないで
602 すか。部活ある子とか、兄妹の世話がある子とか、
603 バイトある子とか」
604

605 主人公（でも、その事情を周りに説明してる？）
606

607 美波「え？ 私の事情を友達に言ってるか……ああ
608 ……言ってない……ですね。あくまで私の事情です
609 し……」
610

611 主人公（同じ断るでも、言った方がいいよ）
612

613 美波「そうですね。今度から断る時とかは、言って
614 みます。確かに理由も言わずに断られたら、もうい
615 いやってなっちゃいますよね」
616

617 美波「えへへっ。なんか、今、ちょっとだけお兄さ
618 んが大人の人だなあって思いました。あつ、もちろ
619 ん、最初から大人の人なんですけど……なんていう
620 か……そう、しっかりしてる！ あ、でもなんかそ
621 れも失礼な言い方ですよね……すみません」
622

623 美波「え？ そのすぐ謝るのがダメ？ あっ！（気
624 づき）そ、そうですよね。これからは、ポジティブ
625 シンキングでいきます！ せっかく、お兄さんにア
626 ドバイスもらえましたから♪」
627

628 //SE:バスタオルで拭く（こ）まど
629

630 美波「……さてと。あとはドライヤーで乾かしちゃ
631 いましょう。任せてください、ドライヤーさばきな
632 ら、ちょっとしたものですよ」
633

634 美波「それじゃ、ドライヤーお借りしますね」
635

636 //SE:パタパタと取りに行き、戻ってくる
637 //SE:ドライヤーの電源オン、温風が出る
638 【5】↓【6】↓【1】

639 身体の周りを回るように、距離近く。
640 ！ここからドライヤーの音続く。

641 (ドライヤー音で尺調整)

642

643 美波「熱くないですか？」

644

645 主人公（大丈夫）

646

647 美波「それじゃ、乾かしていきますね……ふふっ。

648 近所の美容師さん、絶対これ言うんですよ」

649

650 【5】の時

651 美波「うわぁ……お兄さん、こうして見ると意外と

652 背中大きいんですね……いつもお母さんしか見てな

653 いから、なんだか不思議な感じですよ」

654

655 【7】の時

656 美波「背中だけじゃなくて、首回りとかも結構ある

657 ……何か運動とかされてたんですか？ え、特にし

658 てなくてもこのくらいあるんだ……なるほど……」

659

660 美波「えっ、私は運動は全然ですよ？ 走っても大

661 体後ろの方だし……球技とかも苦手で、ボール来て

662 も逃げちゃったりして。それがわかってるから、み

663 んなに迷惑かけたくないし、失敗したくなくて余計

664 に……ああ、ダメダメ。そうですよね、これもボジ

665 ティブでいきます！」

666

667 美波、主人公の髪を触って

668

669 美波「このぐらいで大丈夫……かな。なんか、色々

670 お話し出来てちよっと嬉しかったです。私、自分の

671 ことって友達とかにもあんまり話せないんですけど

672 ……なんでだろう……お兄さんという、なんだか

673 安心するっていうか、つい……」

674

675 美波「すみません、押しかけた状態なのに、こんな

676 に話まで聞いてもらっちゃって」

677

678 主人公（気にしなくていいよ。むしろ、もっと聞く

679 よ）

680

681 美波「え、いい機会だからもつと話したい？ えと
682
683 ……わ、私はもちろんいいですけど……時間、大丈
684 夫ですか？ 寝る時間とか、いつもどのぐらいで
685 す？ 明日早いとかなら……」

686 主人公(まだまだ大人は寝る時間じゃないから平気)

687
688 美波「なるほど、大人の人はまだまだこれから自
689 由時間なんですね。確かにお母さんも、この時間に
690 帰ってきてからひとりで晩酌とかしてます」

691
692 美波「というか、お母さん相変わらず連絡ないです
693 ね……まだ電車はあると思うんですけど」

694
695 主人公(テレビでも見てる?)

696
697 美波「テレビですか？ あ……でも、それより気に
698 なってるモノがあるんですけど」

699
700 主人公(……?)

701
702 美波「その……そのテーブルの上にあるの、使っ
703 てみてもいいですか？ 私、それ一度やってみたく
704 て……」

705
706 ○トラック4

707
708 【9】↓【7】

709 ソファに横になる主人公。

710 美波、その頭を膝枕する。

711
712 美波「それじゃ、ここに横になってください」

713
714 美波「違います、頭はこっち。私の膝の上で」

715
716 主人公(ええ？ でも、それは……)

717
718 美波「恥ずかしがらなくていいですよ。というか、
719 お兄さんが恥ずかしがると、私まで恥ずかしくなっ
720 ちやいます……」

721
722 美波「それに、膝の上じゃないと高さに耳の穴よ
723 く見えないです」
724
725 主人公（じゃ、じゃあ……お願いします）
726
727 美波「はい、それじゃ、こうして横……よりも縦の
728 方が楽ですよね」
729
730 美波「前にお母さんに教えてもらったんです」
731
732 美波「もし好きな人が出来たら、こうして膝枕して
733 あげるのよって……」
734
735 美波「……（気づき）あつ、ええつと、そういう意
736 味じゃなくて！ 膝枕の仕方の話で！」
737
738 美波「うう……は、恥ずかしい……」
739
740 美波「そ、それじゃ、耳かき始めますね」
741
742 【7】 近く
743
744 主人公（は、はい……）
745
746 美波「ここまでしておいてなんですけど、実は私……
747 ……人の耳かきするのって、はじめてなんですよね」
748
749 主人公（ええっ!）
750
751 美波「大丈夫、やさしくしますから……ね？」
752
753 美波「それじゃ……いきますよ……もし痛かったり
754 したら、右手を上げてください……つて、それは歯
755 医者さんですね（苦笑）」
756
757 美波「まずはなかをよく確認して……はあ……へえ
758 ……なるほど……大人の人の耳のなかって、こんな
759 感じなんですわ……」
760

761 美波「大丈夫、任せてください。こう見えて、手先
762 は器用な方なので。とりあえず、入り口の方からい
763 きますね……」
764
765 美波「で、では……（緊張）ゴクリ」
766
767 //SE:い」から耳かき音継続
768 （セリフ SEで尺調整）
769 エロくなりすぎならその部分カット（役者さん合わ
770 せで）
771
772 美波「い、痛くないです？」
773
774 美波「あ……少し取れました……なるほど……」
775
776 美波「……………ふう」
777
778 美波「……………うん」
779
780 //やらに近付く、衣擦れの音
781 美波「あ……もうちょつと……」
782
783 美波「あ、ティッシュもらいますね」
784
785 //SE:ティッシュ抜く音
786
787 美波「それじゃ、もう少し先の方に……」
788
789 美波「じつとしてくださいね……」
790
791 美波「ん……………（上手くないかない）」
792
793 美波「あ……（取れて喜び）」
794
795 美波「わ、よく見たら最後に大ボスみたいなのが
796 います」
797
798 美波「これは……いけるかな……」
799
800 しばらくカリカリと

801
802 美波「ふう……手強い……」
803
804 美波「でも……あとちよつと……」
805
806 美波「うん、うん……」
807
808 美波「あ……いけそう……」
809
810 美波「もうちよつと……」
811
812 夢中になって密着
813
814 美波「あと少し……ああ……」
815
816 美波「惜しい……あ……」
817
818 美波「ん……（集中）」
819
820 美波「やった♪」
821
822 美波「やりました！ ふう……（緊張ほぐれ）」
823
824 美波「あと、こつち側はもうちよつとだけ……」
825
826 美波「なんだか、ちよつと慣れてきた感じがします。
827 最初はちよつと緊張しましたけど……」
828
829 主人公（そういえば、初めて会ったときも緊張して
830 たよね）
831
832 美波「え……お兄さんと初めて会ったときもすごい
833 緊張してた？ そ、そういえばそうだったかも……」
834
835 美波「確か、お兄さんが引っ越してきて、ご挨拶に
836 来てくれたんですよ。でも、うちのお母さんあの
837 時もないくて、家に私しかいなくて……」
838
839 美波「だ、だって、やっぱり緊張しますよ。知らな
840 い男の人が急に来たら」

841
842 美波「でも……最初だけでしたよ。ほら、覚えてま
843 す？ 駐輪場で自転車のチェーンはずれちゃって、
844 困ってたの直してくれて」

845
846 美波「……ううの得意だからって手伝ってくれて…
847 …でもチェーンの油の汚れ、顔につけちゃってて」

848
849 美波「あの時は、つい笑っちゃってすみませんでし
850 た……」

851
852 美波「でも、あのあたりから知らない男の人じゃな
853 くて、お隣のお兄さんって感じになってきて……」

854
855 美波「えへへっ。なんか、こうして改めて話すと恥
856 ずかしいですね……」

857
858 美波「はい、それじゃ右の耳完了です♪」

859
860 美波「と、その前に、最後のしあげが残ってました」

861
862 美波、主人公の右耳に息を吹きかけてくる。

863
864 美波「どー……っ」

865
866 主人公（……っ!）

867
868 美波「どうでした？ 気持ち良かったですか？」

869
870 主人公（それはまあ……）

871
872 美波「良かったあ……それじゃ、反対側いきましよ
873 うか。こっち向きで、ごろーんてしてください。は
874 い、良く出来ましたっ」

875
876 【7】→【8】
877 美波、主人公の左耳の耳かきをしていく。

878
879 美波「よーし、それじゃ左側のお耳、はじめますね」
880

881 美波「最初より大分慣れてきた感じするので大丈夫
882 だと思えますけど……もし、何かあったら言って下
883 ささ」

884
885 美波「まずは入り口から……そろそろっと……」

886
887 美波「右ほどはたまつてない感じですね……左右で
888 違いあるんだ……なるほど……」

889
890 美波「……よしよし」

891
892 美波「……うんうん」

893
894 美波「もうちょつと頭ずらして……うん、そう、あ
895 りがとうございます」

896
897 美波「……どうですか？ この辺」

898
899 美波「気持ちいい……ですか？」

900
901 美波「こりこりつてしてますね……ふふっ」

902
903 突然近付いて、

904
905 美波「ふーーーーっ」

906
907 主人公（ひゃっ）

908
909 美波「（悪戯っぽく）どうしちゃったんですか、変な
910 声出して」

911
912 美波「細かいのを吹き飛ばしただけですよ？ こん
913 な風に」

914
915 美波「ふーーーーーっ」

916
917 主人公（おおっ）

918
919 美波「ふふっ、可愛い……」

920

921 美波「お兄さん、耳に息かけられるのに弱いんです
922 ね」
923
924 美波「でも、嫌って感じ……じゃないですよね？
925
926 美波「むしろ、喜んでるみたいなの……」
927
928 美波「ふーーーーっ」
929
930 美波「ふふふっ（小悪魔的な笑み）」
931
932 美波「お兄さん可愛いから、なんだか悪戯したくな
933 っちゃっっ……」
934
935 美波「はい、ここからは真面目にやります」
936
937 美波「……あれ、ちよつとよく見えない……」
938
939 //SE:衣擦れの音、密着
940
941 美波「ん……これなら……」
942
943 美波「あっ……いけそう……」
944
945 美波「あ……あっ……」
946
947 美波「やった♪（取れたー）」
948
949 美波「どうです？ 気持ちいいですか……？」
950
951 美波「ふーーーーっ」
952
953 主人公（ひゃっ！）
954
955 美波「あ、っ……」
956
957 主人公（もう、イジワルしないでよ）
958
959 美波「はい、もう悪戯しません。これが最後です」
960

961 美波「ふーーーーっ」
962
963 耳元で囁くように
964
965 美波「初めてでしたけど……すごく、良かったです」
966
967 美波「お兄さんも、気持ち良くなりましたか？」
968
969 主人公（うん……）
970
971 美波「ふふっ。そんなに喜んでもらえるなら、今度、
972 お母さんにもやってあげよっ♪」
973 ○トラック5
974
975 **【15】**
976 ソファに並んで座った主人公と美波。
977
978 美波「ふう……（満足）。なんていうか、お兄さんの
979 反応がうれしくて……ちょっと調子にのっちゃいま
980 した、ゴメンナサイ」
981
982 美波「さてと……そろそろお母さんも連絡が……（嘆
983 息）ないですね」
984
985 美波「もう十二時過ぎるのに……終電なのか、タク
986 シーか……」
987
988 美波「ん……（ちょっと眠い）せめて、連絡ぐらい
989 くれればいいのに……」
990
991 美波「ふぁ……（小さな欠伸）」
992
993 美波「あ、だ、大丈夫です、まだ全然眠くは」
994
995 美波「いつもこの時間、宿題とか勉強してるので…
996 ……今日はお休みですけど」
997
998 主人公（でも、疲れてるみたいだし）
999
1000 美波「大丈夫……大丈夫……です。委員会とかで、

1001 ちょっと疲れただけで……」
1002
1003 美波「お兄さんのお部屋で、最初はちょっと緊張し
1004 てましたけど……もう、安心っていうか……あれ、
1005 私、何言ってるんだろ……ふぁ……（小さな欠伸）」
1006
1007 美波「でも、ここで寝ちゃうわけには……まだ、も
1008 っとお話ししたい……」
1009
1010 美波「せっかくなんだから……んん……」
1011
1012 美波「ふぁぁぁ……あ、ご、ごめんなさい……あ
1013 の、ほんのちよつとだけ、ほんのちよつとだけ目を
1014 閉じてもいいですか？ 5分経ったら起こして欲し
1015 いので……」
1016
1017 美波「5分で大丈夫……です……」
1018
1019 美波「なんか急に……眠くて……」
1020
1021 美波「ん………お兄さんも、一緒に寝ますか……？」
1022
1023 美波「ふふふつ。冗談、です……」
1024
1025 美波「そんなめいわく……かけられない……」
1026
1027 //SE:とぎつと主人公の方にもたれる美波。
1028
1029 美波「すう……（寝息）」
1030
1031 ここから1分ほど寝息。
1032
1033 美波「……すう………すう……」
1034
1035 美波「ん………ん………」
1036
1037 美波「お兄ちゃん………ふふっ………ふふふっ……（寝
1038 てる）」
1039
1040 美波「すう………」

1041
1042 寝息が深くなっていくのがわかる。
1043 主人公、仕方なく美波を抱きかかえ、ベッドに運ば
1044 うとする。
1045
1046 美波「んん……（寝ぼけ）あれ……お姫様……だっ
1047 ら……」
1048
1049 美波「お兄さんの手……あったかい………すう…
1050 …（眠り）」
1051
1052 運ばれていく美波。
1053
1054 美波「ん……なんか揺れてる……」
1055
1056 美波「眠くない……寝てない……です……」
1057
1058 //SE:ベッドに横たえる
1059
1060 美波「あ……お布団……気持ちいい……」
1061
1062 主人公、ソファに戻ろうとするが美波に服を掴まれ
1063 る。
1064
1065 美波「……あ、ダメ、お兄さん……そっち行っちゃ
1066 ……お兄さんの場所……ここですよ」
1067
1068 美波、ばんばんと自分の横の布団を叩く
1069 //SE:バンパン
1070
1071 美波「ほら、はやくー（寝ぼけ）」
1072
1073 美波「疲れてるんですからー、一緒にお休みしまし
1074 よー（寝ぼけ）」
1075
1076 美波「私が……あっためてあげますよ?」
1077
1078 美波「……でも……いや……ですかー?」
1079
1080 主人公(嫌じゃないけど、これはマズイのでは……)

1081
1082 美波「嫌じゃないなら、マズくないですー。私がい
1083 いって言ってるんだから、いいんですー」
1084
1085 美波「ね……お願い……」
1086
1087 主人公（ちょっとだけ、ちょっとだけね）
1088
1089 美波「ちよっとだけじゃダメー。ゆっくりしてくれ
1090 なきゃやですー」
1091
1092 美波「はい、こつちでーろーん」
1093
1094 //SE:またパンパンと布団たたく
1095
1096 【9】↓【7】
1097 ベッドの奥側（窓側）に美波。
1098 手前側に主人公が横になる。
1099
1100 美波「良く出来ました。ふああああ……（欠伸）」
1101
1102 美波「ほら……お布団ひんやりしても、こうして
1103 くっくくと、あったかい……」
1104
1105 美波「ぎゅうつてしてください……」
1106
1107 美波「ダメ……もっと強く……」
1108
1109 美波「うん……なんだか、すごく気持ち良くて……
1110 安心……」
1111
1112 美波「お母さんとも違う……不思議な感じ……」
1113
1114 美波「んん……（くんくん）いい匂い……」
1115
1116 美波「はあ……（うつとり）なんだか、すごく……
1117 いいなあ……」
1118
1119 美波「じういうの、幸せっていうのかな……」
1120

1121 美波「んん……すう……ねむ……」
1122
1123 美波「すう……すう……すう……」
1124
1125 美波「すう……」
1126
1127 1分ほど、完全に寝ている美波。
1128 急に、ハッと気付いたように
1129
1130 美波「……（気づき）っ!」
1131
1132 寝ぼけていた美波、状況に気付き飛び起きる。
1133
1134 美波「えっ! あれっ! ええっと、私、なんで……
1135 あれ?! 今の夢じゃない?」
1136
1137 美波「す、すみません……! 私、とんでもないこ
1138 とを……! え? 気にしてないし、むしろゴメ
1139 ン? ち、違います! 謝るのは私です! なんか、
1140 めちゃくちゃ寝ぼけて……てつきり、夢だとばか
1141 り……ふええええ（錯乱）」
1142
1143 美波「あ……あの……はしたない子だと思わないで
1144 もらえると……嬉しい……です」
1145
1146 美波「あ、ありがとうございます……」
1147
1148 主人公（じゃあ、僕はソファで寝るよ）
1149
1150 美波「え……お兄さん、ソファで寝るんですか?」
1151
1152 美波「……………（考えて、思い切って）」
1153
1154 美波「あ、あのっ! それなら……その……良かつ
1155 たらなんですけど……一緒に……寝ませんか?」
1156
1157 美波「あの、そんなくつくとかじゃなくていいの
1158 で……私、はじっこの方で、ちっちゃくなってます
1159 から」
1160

1161 美波「ほ、ほら、その……お布団、温めておきまし
1162 た……的な？」
1163

1164 美波「ちよつと無理があります……よね？ 大丈夫
1165 です、わかってます……自分が変なこと言ってるっ
1166 て」
1167

1168 美波「あ……もう、そんなに笑わなくてもいいじゃ
1169 ないですか……」
1170

1171 美波「いいです、私がソファで寝ますから、お兄さ
1172 んはお布団で」
1173

1174 美波「……（気づき）あ。お母さんからメッセージ
1175 来てましたー」
1176

1177 美波「ええと……あ……」
1178

1179 美波「（もしもし）ええつと、その……」
1180

1181 美波『『お兄さんによろしくね♪』とだけ……』
1182

1183 主人公（どういことぞ）
1184

1185 美波「そういうこと……みたいです……もうっ、お
1186 母さんったら……」
1187

1188 美波「だから……安心して、おやすみしましょ？」
1189

1190 美波「お布団掛けて……はい……」
1191

1192 美波「ふふっ……なんだか、ちよつと緊張しちゃい
1193 ますね」
1194

1195 美波「もうちよつとだけ……お話し……いいです
1196 か？ また眠くなるまで……」
1197

1198 美波「今日は本当にありがとうございました……お
1199 兄さんがいなかったら、カラオケボックスとかで朝
1200 まで過すごさなくちゃいけないところでした……」

1201
1202 美波「ひとりじゃ危ない？　そうですね……はい、
1203 気をつけます（反省）」
1204
1205 美波「それじゃ……今度行くときは、一緒に行きま
1206 せんか？　カラオケ」
1207
1208 美波「ホントですか？　うわあ……嬉しい……。約
1209 束、ですよ？」
1210
1211 美波「はい、小指出して下さい」
1212
1213 美波「ゆびきりげんまん、嘘付いたらはりせんぼん
1214 のーます」
1215
1216 美波「ふふっ……なんだかんだ言って、こうして素
1217 直につきあってくれるの、すごく嬉しいです」
1218
1219 美波「私のこと、子ども扱いしないでいてくれるし
1220 ……」
1221
1222 美波「だから……………」
1223
1224 美波「そ、その……（好きと言い出せない）」
1225
1226 美波「ええと……………な、なんでもないです（照れ）」
1227
1228 美波「明日は早いですか？」
1229
1230 美波「あ、私より早い……じゃあ、目覚ましかけな
1231 いですね」
1232
1233 美波「少し早めにしておいてください。私、朝、飯
1234 作りますから」
1235
1236 美波「朝はちゃんと食べないとダメですよ」
1237
1238 美波「泊めてもらったお礼です♪　気にしないでく
1239 ださい」
1240

1241 美波「むしろ、私が作りたいんです♪」
1242
1243 美波「ふぁ（欠伸）……あれ……もっと、お話し
1244 たいのに……」
1245
1246 美波「そうなんです……もっと……もっと……お兄
1247 さんのこと……知りたい……」
1248
1249 美波「んん……あの……ひとつだけ、お願い……」
1250
1251 美波「こうして……手、握っててもいいですか？」
1252
1253 美波「そしたら……すく……しあわせな……」
1254
1255 美波「すう……」
1256
1257 美波「お兄さん……好き……」
1258
1259 ○トラック6
1260 10分ほど寝言、寝息で F/O
1261 寝言基本的にアドリブで。
1262
1263 以下寝言案(ポジティブ、心地よい感じのセリフで)
1264
1265 美波「……んん……」
1266
1267 美波「ふぁぁ……」
1268
1269 美波「すう……すう……」
1270
1271 美波「んん……美味しい……」
1272
1273 美波「そい……あ……そい……」
1274
1275 美波「ふふ……ふふふ」
1276
1277 美波「へっ……」
1278
1279 美波「あったかい……」
1280

1281 美波「ぎゅうつて……ぎゅうつて……」
1282
1283 美波「今度は……私の耳かき、お願いします……」
1284
1285 美波「お風呂……いつしよに？ ううん……」
1286
1287 美波「お風呂なら、ぬがないと……」
1288
1289 美波「もうおなかいっぱい……」
1290
1291 美波「気持ちいい……です……」
1292
1293 美波「手、はなさないで……」
1294
1295 美波「ふー……っ（耳元）。ふふふふっ（悪戯っぽく）」
1296
1297
1298 美波「お兄さん……朝ですよ……くう……（寝てる）」
1299
1300 美波「お兄さんと一緒におでかけ……楽しみ……」
1301
1302 美波「お母さんには渡さないんだから……もー……」
1303
1304 美波「いい匂い……お兄さんの匂い……」
1305
1306 美波「♪ふ〜（寝言で鼻歌）」
1307
1308 美波「もっとかっついて……ね……」
1309
1310 主人公の頭を抱きかかえるようにして、
1311
1312 美波「はーい、おやすみですよ……」
1313
1314 美波「ゆっくり寝ましょうね〜」
1315
1316 美波「ずっと……こうしてたいなあ……」
1317
1318 美波「朝なんて来なくていいのに……」
1319
1320 美波「お兄さん……可愛い……」

1321

1322 美波「だいすき……です……」

1323

1324 //END